



宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第3号

5月5日から郷土資料館全面オープン 旧斎藤家住宅完成

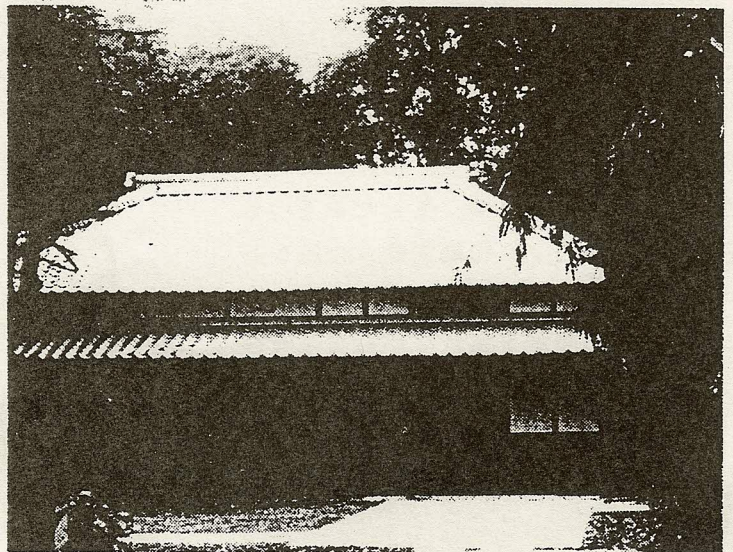
昨年3月から改修工事が行われてきました旧斎藤家住宅が完成しました。

旧斎藤家住宅は明治時代に建てられたと伝わる母屋を中心として、蔵や物置（米蔵）があります。

母屋は面積 187 m^2 （約57坪）を測る瓦葺きの平屋（1階建）の建物です。内部は民家建築の特徴である「田の字」型（四間取り）の部屋割りとなっています。蔵（土蔵）は、延べ面積約 46 m^2 （約14坪）の瓦2階建の建物です。米蔵は、延べ面積約 40 m^2 （12坪）の瓦2階建の建物です。内部に横板をはるなど、米の保存に対する配慮が見受けられます。

周囲には、長い「けいど」と呼ばれる斎藤家に入る道（資料館入り口の道）と、カシの木や竹などの屋敷林があります。この屋敷林は、「西原自然の森」の大切な緑でもあり、この地域の特色でもある農家の景観を形作っています。

5月5日から公開します。五月ばれの一日、緑に親しみながら「西原自然の森」を訪れてはいかがでしょうか。



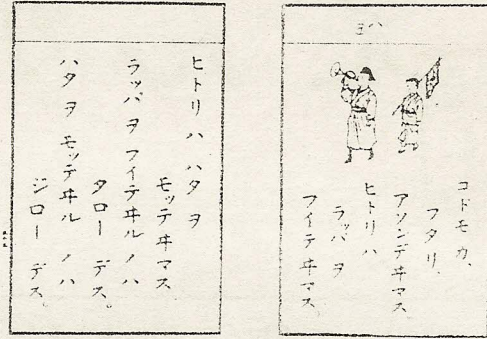
ワンポイント展示の案内

『時は明治、

そのころ学校では・・・』

明治5（1872）年8月、明治政府は「学制」という法律を定めました。また明治12（1879）年には「教育令」が公布され、義務教育が法文化されました。

今回のワンポイント展示では、明治のころの小学生が勉強につかった、教科書やノートなどを展示します。現在は製本の技術や印刷の技術も明治のころより発達しています。教科書の内容もいまとは違っているようです。当時の小学生たちの様子を、ちょっとのぞいてみませんか。



『修身』の教科書

ステージ展示のご案内

むかしの道具 お茶ごしらえ

ステージ展示では、本年度も農作業に使われてきた道具を展示します。

今回は、今回はお茶ごしらえの道具を展示しました。

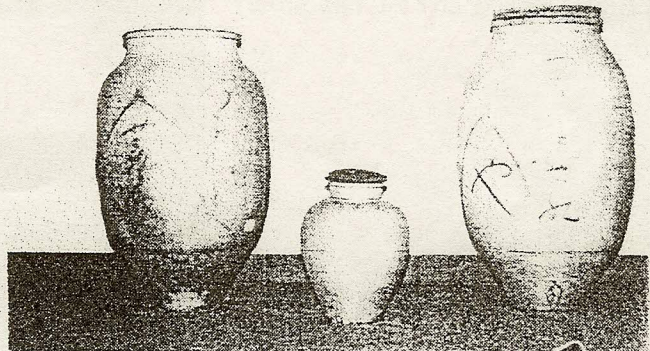
お茶の新芽も出て、5月頃にはいよいよお茶ごしらえの季節となります。最近では少なくなりましたが、勝手の農家の屋敷や畑にはお茶の木が植えられていました。

お茶摘みは5月初旬の田植え前の頃です。カゴにお茶の葉を手で積み、それを集めてかまで蒸します。蒸したお茶の葉を、炭火の炉の上に和紙で貼った箱をおいた「ホイロ」の上で何度もお茶もみをし、ホイロの和紙を貼りながらお茶を作

りました。お茶もみも立ちどおしてしかも熱い中、大汗をかきながらの作業は大変でした。しかし、自家製のお茶の味はまた格別であったようです。

こうして、出来上がったお茶は、茶壺（茶甕）に入れられて保存されました。

今回は、セイロ、茶壺などを展示しました。



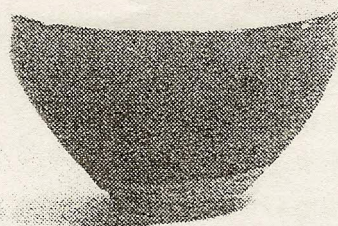
～收藏資料の紹介～

てんしゅちやわん

天目茶碗

現在、郷土資料館が建つ、地藏院遺跡の発掘調査で、戦国時代から江戸時代にかけての堀が確認されたことは、「えんがわ」創刊号の「内耳鍋」で紹介しましたが、この天目茶碗も同じ堀の中から発掘されました。

天目茶碗は、鎌倉時代以降、茶道の道具として盛んに使われました。初めは、中国からの輸入だけでしたが、のちに、瀬戸地方（愛知県）を中心に作られ、戦国時代末から安土桃山時代にかけて、茶



道の流行と共に大量に消費されました。

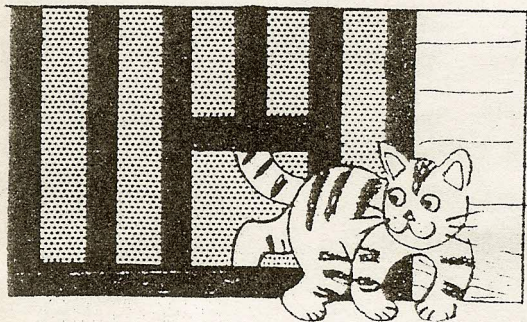
地藏院遺跡からは、数個の天目茶碗が出土しています。時代は、戦国時代末と江戸時代初期のものです。当時、堀に囲まれた屋敷をもち、茶道を嗜む土豪が住んでいたことが証明されました。

これ何だべな？

加藤家の戸のなぞ？

加藤家の土間から部屋に上がる所にある格子戸をよく見ると、右下に正方形の穴があります。お気づきの方も多いかと思いますが、なぜ、穴があいているか知っていますか。これは、猫の通る穴（道）です。猫は、江戸時代以前からペットとして愛好されてきました。加藤家でも、江戸時代にペットとして猫が飼われ、かわいがられたのでしょう。

現在でも、ドアに細工をして猫や犬の出入り口を作っている家がありますが、江戸時代も現代も猫をかわいがる気持ちは、変わらない様です。



さかさい

逆井遺跡発掘調査から

逆井遺跡は、平成6年11月から7年2月にかけて発掘調査が行われ、縄文時代早期（約8,000年前）から後期（約3,500年前）にかけての集落の跡と江戸時代中頃以降の新田（畑）開発に伴う溝などが発掘されました。

発掘調査終了後の2月25日には、現地説明会が行われ、逆井地区の皆さんをはじめ、約35名の方が参加されました。参加者は、出土した遺構や土器の説明から、それぞれ「いにしえの宮代」を思い描いたようです。

わたしのひとこと

郷土史講座からのひとこと！

- ・縄文土器の文様の多様さに驚いた。
- ・宮代の歴史が大まかながら分かった。
- ・宮代の歴史が書いてあるテキストがあるとよかった。
- ・古跡・社寺等の巡回見学をして欲しい。
- ・西光院などの歴史が分かり勉強になった。
- ・古文書の解説講座等も行っていて欲しい。
- ・町内見学会での史跡巡りが楽しかった。

逆井遺跡現地見学会からのひとこと！

- ・逆井地区は、古いものが何も無いと思っていたが、遺跡が発掘され地元で誇れるものが、また一つ増えた。
- ・遺跡で発掘されたものを目の前で見ることができ、非常によかった。

資料館日誌抄

平成7年

- 2月1日 ワンポイント展示「ひなまつり」(3月末まで)
- 2月5日 郷土史講座「発掘された宮代の歴史」(旧石器時代の宮代町)
講師 埼玉県立歴史文化センター 西井幸雄氏
- 2月12日 郷土史講座(縄文時代の宮代町)
講師 埼玉県文化財保護課 鈴木敏明氏
- 2月19日 郷土史講座(町内見学会)
- 2月21日 逆井遺跡発掘調査終了
- 2月22日 逆井遺跡試掘調査(3月7日まで)
- 2月25日 逆井遺跡現地説明会
- 2月26日 郷土史講座(古代の宮代町)
講師 埼玉県立さきたま資料館 利根川章彦氏
- 3月5日 郷土史講座(中近世の宮代町)
講師 宮代町郷土資料館 青木秀雄
- 3月22日 山崎南遺跡試掘調査(3月末まで)

資料寄贈者名簿

平成7年1月から3月間での3カ月の間に民具や古文書等の資料を寄贈していただいた方は下記のとおりです。厚く御礼申し上げます。

ご寄贈いただきました資料は今後「収蔵品展」等でご紹介させていただきます。

(50音順・敬称略)

白川由利子 民具
成田良夫 民具
谷関 良 民具
渡辺恵司 民具
新井 尚 民具

今後、昔を語る様々な資料を収集してまいりますので、ご協力の程、お願い申し上げます。

コラム-クルミの木-

◆資料館の外へ出ると、木々の芽や花のつぼみがふくらみ、春がもうすぐそこまで来ているのを実感します。

◆「春」と聞くとなぜか、心の中まで何か新しいものに対する期待がうずうずしてきます。◆ちょっとうらかな春の日には、「西原自然の森」を散策してみたいかがでしょうか。◆暖かな春の日差しを浴びながらの散歩は、貴方に一味加えてくれるかもしれません。

宮代町郷土資料館だより 第3号

発行年月日 平成7年4月1日

編集発行 宮代町郷土資料館

〒345

埼玉県南埼玉郡宮代町

字西原289番地

☎0480-34-8882